



令和元年度 豊島区教育委員会研究奨励校



健やかな心と体をもつ児童の育成

令和元年度

児童自らが健康課題に関心をもち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫



豊島区立朋有小学校



はじめに

豊島区立朋有小学校長 稲垣 昌弘

本校では、豊島区教育委員会研究奨励校・東京都教育委員会のアクティブライフ研究実践校として児童の体力向上と健やかな心と体を育む実践を続けてまいりました。現在、体育科の授業だけではなく、本研究を通じて策定しました、「児童の健やかな心と体を育むプログラム(10の取組)」を全校で実践しています。

児童の健やかな心と体を育むためには、自らの健康への課題に関心を持ち、それを様々な実践を通して達成しようとする態度と実践力を身に付けることが重要です。本校が試行錯誤しながら積み重ねてまいりました教育活動は、児童にとって、将来の健康や豊かなスポーツライフにつながるものと考えます。

今後、保護者・地域関係機関との連携や隣接する豊島区総合体育場、現在建設中の豊島区防災公園等の活用も含め、更なる健康教育・スポーツライフの充実のための実践に努めてまいります。本年度実施しました、保健学習と食育に力を入れた実践につきましても、その取組の成果や課題を検証し、さらに工夫・改善を行い、今後の教育活動に生かせるよう取り組んでまいります。

朋有小学校「児童の健やかな心と体を育むプログラム」

1. 「児童の健やかな心と体を育むプログラム」10 の取組の基本的な考え方

本校は、平成 28・29・30 年度 東京都アクティブライフ研究実践校として健やかな心と体をもつ児童の育成の実現に向け、「児童の健やかな心と体を育むプログラム」を作成した。

昨年度までは、特に 10 の取組のうち、取組 4・6・8 を校内研究で取り組んだ。令和元年度も引き続き、取組 4・6・8 を中心に研究し、取組内容をより深められるようにした。

取組 1 「体育・健康プラン」の推進
〈ねらい〉「体育・健康プラン」を学校経営方針に位置付け、学校教育活動全体を通して体育・健康に関する取組を推進する。
取組 2 体力テストの実施・結果・分析
〈ねらい〉児童の実態を把握し、その結果を分析し基礎資料とし体育科授業に活用する。
取組 3 「認め合い」「教え合い」「励まし合い」3つの合いを重視した体育科授業の工夫
〈ねらい〉仲間と豊かなかわりを通して運動の楽しさ、心地よさを実感し、自らの心と体の変化に気付く授業を実践する。
取組 4 FC 東京キャラバン隊と走り方教室で創る授業
〈ねらい〉児童のやる気、考えを引き出し、体の動きを高める指導を工夫する。
取組 5 教員の指導力向上
〈ねらい〉児童の発達段階に応じた適切な指導の在り方、指導方法や実技指導の研修を行い、教員の指導力向上を図る。
取組 6 運動習慣・生活習慣の改善
〈ねらい〉家庭・地域・関係諸機関と連携し、運動習慣・生活習慣の改善を図る。 (学期1回アンケートを実施) ※ アクティブライフ研究校(歯と口腔の健康づくり授業、がん教育授業、姿勢タイム、食育授業、保健学習)
取組 7 体力向上のための1校1取組運動
〈ねらい〉計画的に体育朝会でリズムダンス、長なわ、短なわを使った運動を行う。
取組 8 休み時間を活用した朋有エンジョイタイム(業間運動遊び)の推進
〈ねらい〉時間、施設を生かして運動遊びの機会を確保し、体力向上を図る。
取組 9 体育的行事等における運動意欲の向上、オリンピック・パラリンピック教育の充実
〈ねらい〉体育的行事への参加やオリンピックとの交流を通して、運動意欲を高める。 ※ 運動会、オリンピック・パラリンピアンによる授業や講演など
取組 10 体育科授業のけが件数の分析と具体的な対策と取組
〈ねらい〉体育授業のけがの未然防止に努め、具体的な対策を考え授業改善を図る。 ※ セーフスクールの取組(安全チェックカードの作成・工夫・改善)

2. 10 の取組実施計画

児童の健やかな心と体を育む取組は、短期的に成果が表れるものではなく、中・長期的な視野に立って取組の推進を図らなければならない。実施計画は4年間を見通して2016年に立案し、4年後の2020年オリンピックイヤーに目標が達成できるよう、計画に沿って年度ごとに、その成果を把握し、取組の改善を図っていく。

取組	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
取組1 「体育・健康プラン」の推進	プラン作成・ 評価・改善	取組の 検証 (豊島区教育委員会研究推進校発表)	ISS取組審査 東京都アクティブライフ研究実践校発表 豊島区教育委員会研究奨励校	体力向上 オリンピック・パラリンピック教育の充実	➡
取組2 体力テストの実施・結果・分析	5・6月実施 7・8月分析				➡
取組3 「認め合い」「教え合い」「励まし合い」 3つの合いを重視した体育科授業の工夫	仲間とかわり、心と体の変化に気付く授業の推進				➡
取組4 FC 東京キャラバン隊と走り方教室で 創る授業	児童のやる気を引き出す実践授業				➡
取組5 教員の指導力向上	実技研修を中心とした校内研修の充実				➡
取組6 運動習慣・生活習慣の改善	家庭・地域との連携、取組推進				➡
取組7 体力向上のための1校1取組運動	計画的な体育朝会の実施				➡
取組8 休み時間を活用した朋有エンジョイタイムの推進	時間、施設を生かした外遊びの推進				➡
取組9 体育的行事等における運動意欲の向上 オリンピック・パラリンピック教育の充実	計画的な運動会実施、オリンピック・パラリンピアン授業				➡
取組10 体育科授業のけが件数の分析と具体的な対策と取組	安全チェックカード作成・工夫・改善				➡

1 研究主題設定の理由

平成 28・29 年度に豊島区教育委員会研究実践校、平成 28・29・30 年度に東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校として、そして昨年度、豊島区教育委員会研究奨励校として研究主題「健やかな心と体をもつ児童の育成」を目指し、研究を進めてきた。

平成 27 年度に実施した東京都の生活・運動習慣等調査結果より、児童の体力や運動能力が、ほとんどの種目で東京都の結果を下回っており、総合的に体力が低いことも分かった。そのことを大きな問題と捉え、児童の運動への関心や意欲を高め、運動の楽しさと喜びを実感させながら、意図的・計画的に体力向上を図る必要があると考えた。そこで、児童の心身ともに健全な発達を促し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、明るく楽しい生活を営む態度を育てていくことが重要と考え、運動領域と保健領域の指導内容の関連、体育・保健の指導につながる健康安全・体育的行事等との関連、児童の実態から計画、実施、評価、改善、外部人材活用を図ってきた。その成果として、「体育の学習は楽しい」と意識している児童は多くなった。しかし一方で、「児童自らが健康課題に関心をもち、進んで運動しよう」という意識は高くなかった。昨年度は保健領域と食育の指導の充実を図ることにしたことで、健康課題について関心をもたせることは、概ね達成できた。しかし、学習・実践したことを継続させることが新たな課題として挙げられた。

そこで今年度は、主に生活科・総合的な学習の時間の課題として取り組み、探究的に課題を解決することで、学習したことをその場限りの実践で終わらせず、日常化させることができるのではないかと考え、研究を進めることとした。

2 取組内容

令和
元
年
度

- ※ 令和 2 年度まで取り組む「児童の健やかな心と体を育むプログラム 10 の取組」を基盤として、保健・食育の分野を中心にした実践と研究を行う。
- 昨年度までの「10 の取組」の内容を工夫改善し、実践する。
- 研究授業 7 回（各学年・竹の子学級）
今年度より保健・食育領域に加え、生活科・総合的な学習の時間で取り組む。
- 健康教育を推進する。
 - ・食育の取組、姿勢タイム、走り方教室など
- さわやかチャレンジカード（生活リズム）と学力テスト・心理検査の分析、心と体のアンケート実施
- 研修(理論と実技)
- ※ FC 東京キャラバン隊コーチによる実技研修、朋有エンジョイタイム実技研修、姿勢タイム研修 等

3 研究構想図

基礎研究
先行研究
研究構想

- ・東京都教育ビジョン
- ・豊島区教育ビジョン 2015、2019
- ・オリンピック・パラリンピック教育
- ・アクティブライフ研究実践校
- ・朋有小学校「児童の健やかな心と体を育むプログラム」10の取組

＜学校教育目標＞

- ・にっこりあいさつ
- ・はっきりすてきなことば
- ・やる気いっぱい心ひとつに

＜児童の実態と育てたい力＞

ISS 認証校として日常のけがの防止に努めているが、児童が健康に関心を持ち、進んで運動したり生活リズムを改善したりする意識は高くない。児童が心や体の健康課題に気づき、進んで解決したり実践したりしようとする意欲や態度を育みたい。

＜学習指導要領の理解＞

「運動に親しむ資質や能力の育成」
・「健康の保持増進」・「体力向上」
3つの具体的目標を関連付ける。

児童が主体的に運動し学習する喜びを分かち合う力をもつ

＜さわチャレによる実態＞

学力に課題がある児童は生活リズムが整ってない傾向が見られる。

＜目指す児童像＞ 笑顔ではっきりと自分を表現できる健やかな心と体をもつ児童

低学年 自分の健康に関心を持ち、いきいきと生活する児童

中学年 自分の健康への課題を見つけ、計画的に解決する児童

高学年 自分や他者の健康への課題を見つけ、工夫して解決し、互いに表現し合う児童

竹の子 自分の生活をふりかえり、元気に生活する児童

＜研究主題＞

「健やかな心と体をもつ児童の育成」

ー児童自らが健康課題に関心を持ち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫ー

＜研究仮説＞

児童自らが健康課題に関心を持ち、仲間と共に主体的に学習・活動すれば、学習したことを自分の生活に生かし、アクティブライフと体力向上を図ることができる。

＜研究のねらい＞

- 仲間と協力して主体的に、健康課題を解決することで、学習したことを生活につなげる。
- アクティブライフの実現と体力向上を図る。

＜研究内容＞

【実践研究】… 研究主題に迫るために次の3つの手だてを柱に授業実践を行う。

- ① 児童自らが健康課題に関心をもつための手だて
- ② 健康課題を解決するための手だて
- ③ 解決した課題を表現するための手だて

【調査研究】・生活リズム（さわチャレ）と学力等の関連についてデータ分析する。「心と体のアンケート」を実施し、検証する。授業前の児童の実態、後の児童の意識の変容を把握する。

＜1 学期＞

- ・研究計画の作成
- ・生活リズムと学力等のデータ分析
- ・事前研究

＜2 学期＞

- ・授業実践
- ・日常的な取組
- ・実技研修

＜3 学期＞

- ・授業実践
- ・実技研修
- ・研究のまとめ

朋有小の児童の変容

教師の授業力向上

保護者・地域の信頼

調査研究

意識調査

授業研究

評価

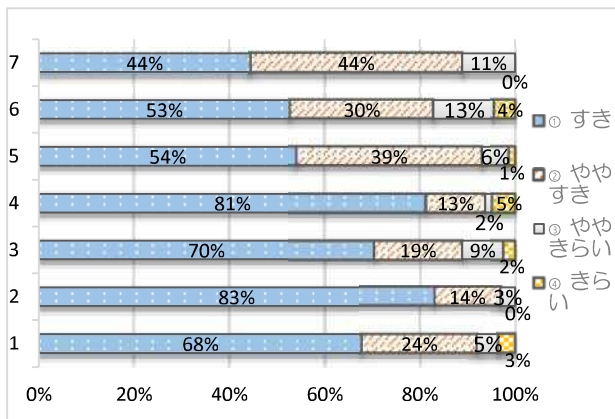
4 調査研究（心と体のアンケート）

○ 心と体のアンケート ＊１から７までの数字は学年を表し、７は特別支援学級とする。

質問１

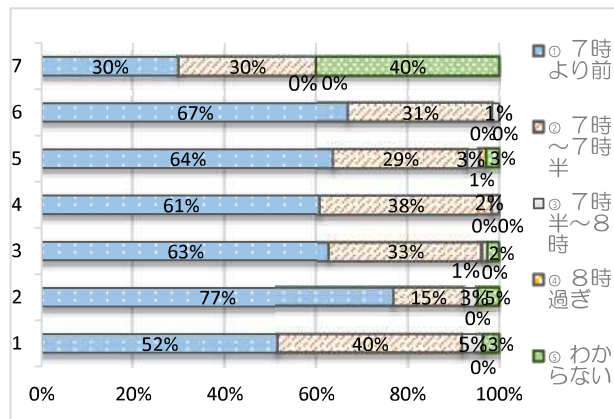
あなたは運動（体を動かすこと）が好きですか。

平成二十九年 度一学期

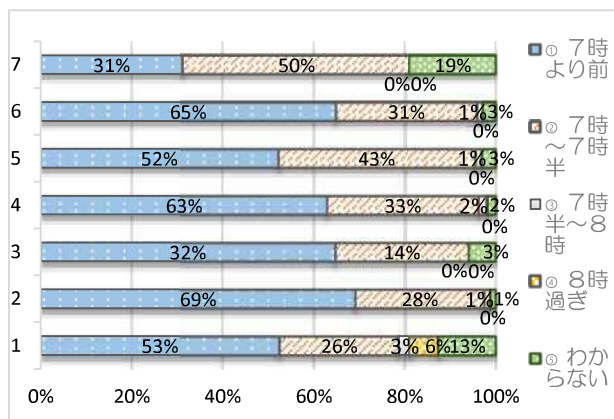
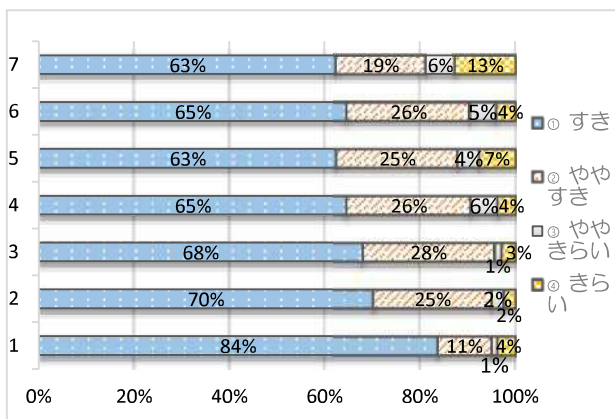


質問２

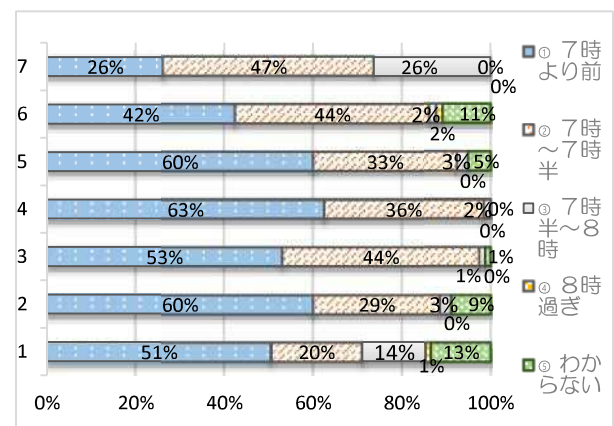
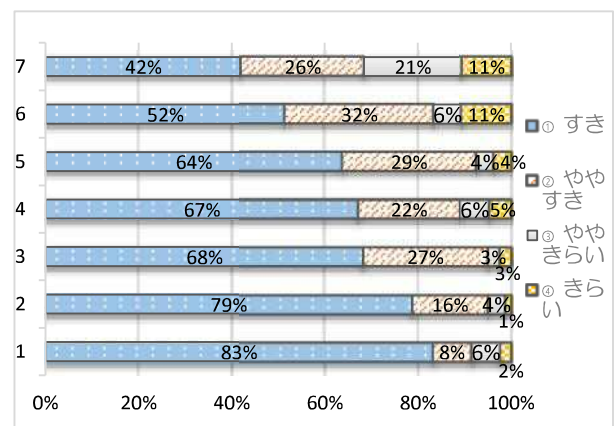
あなたはいつも何時に起きますか。



平成三十 年 度一学期



令和元 年 度二学期



運動に対して肯定的に捉えている児童が多く、学年が上がるにつれて減少傾向にある。

7 時前や 7 時半までに起きている児童が大多数で、学年による大幅なばらつきは見られない。

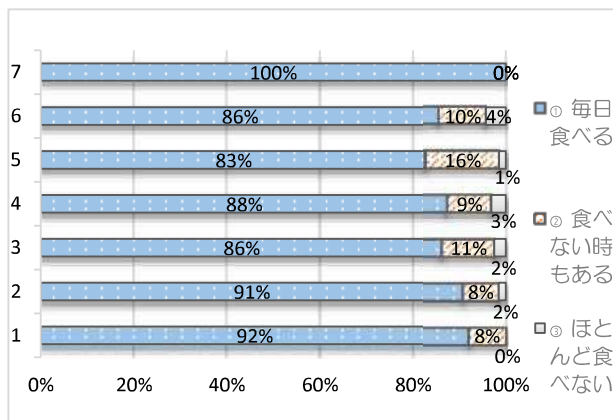
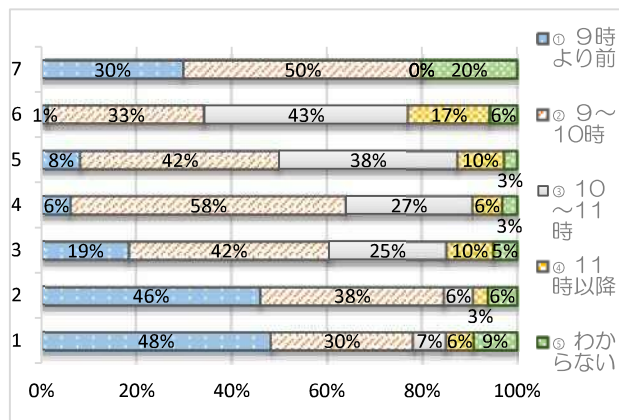
質問3

あなたはいつも何時に寝ますか。

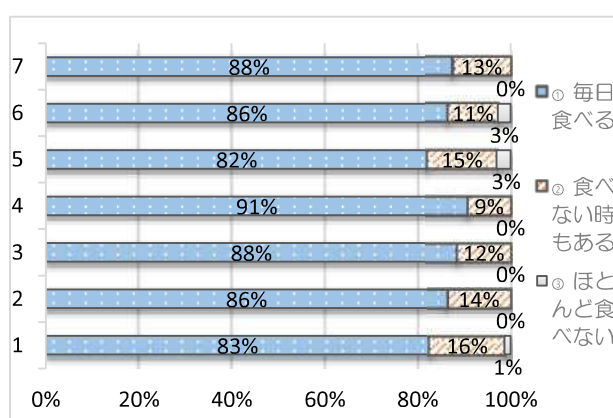
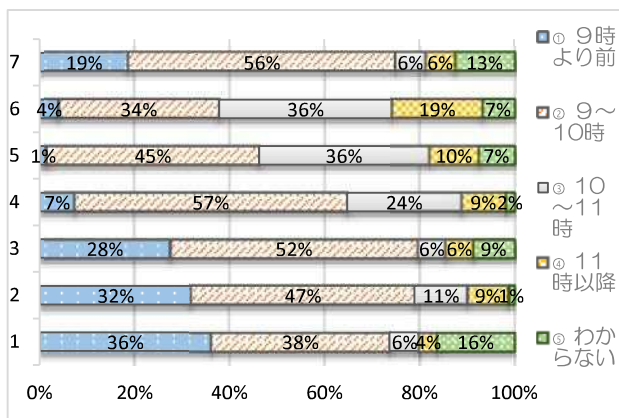
質問4

あなたはいつも朝ご飯を食べていますか。

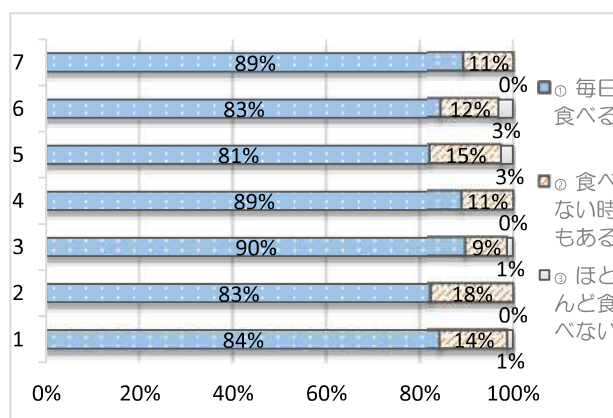
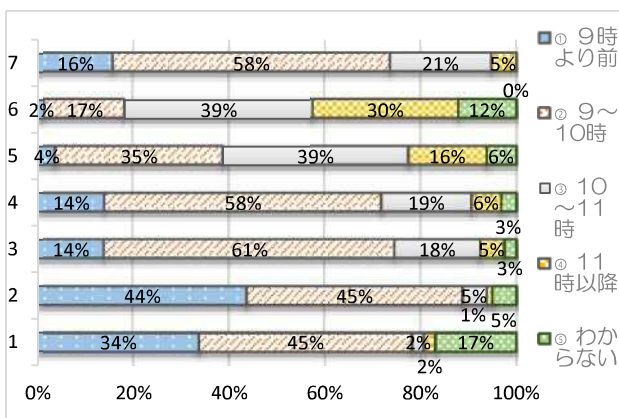
平成二十九年 一学期



平成三十年 一学期



令和元年度 一学期



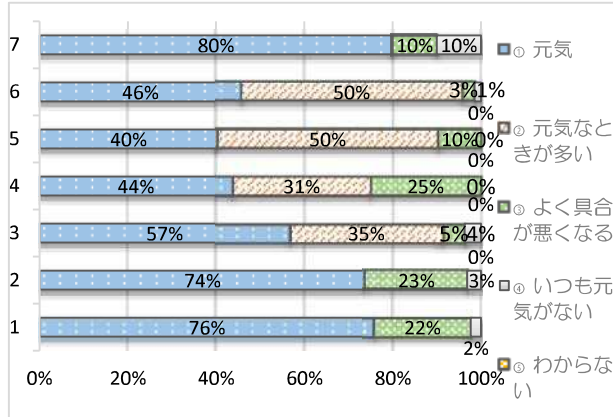
1～3学年では、9時から10時の間の割合が高く、高学年に上がるにつれて時刻が遅くなっていることが分かる。

毎朝、朝ご飯を食べている児童が8割以上いることが分かる。

質問5

普段、自分は、どんな体の調子の時が多いですか。

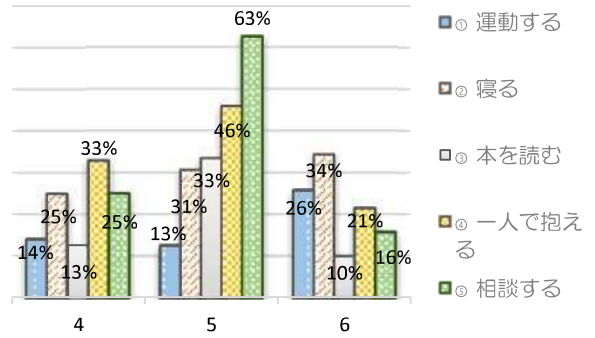
平成二十九年 度一学期



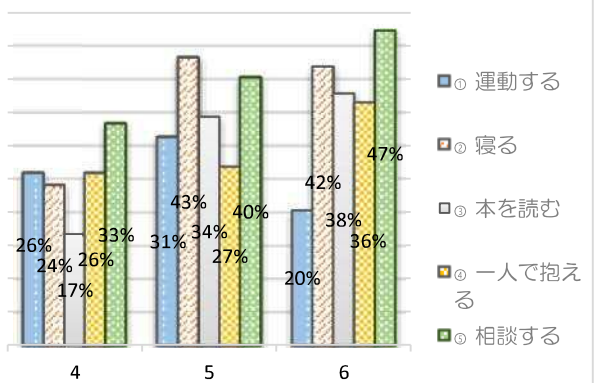
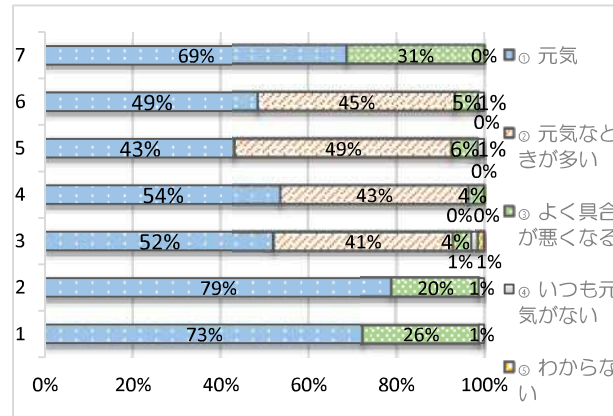
質問6

不安や悩みを抱えたとき、どうしていますか。
(複数回答可)

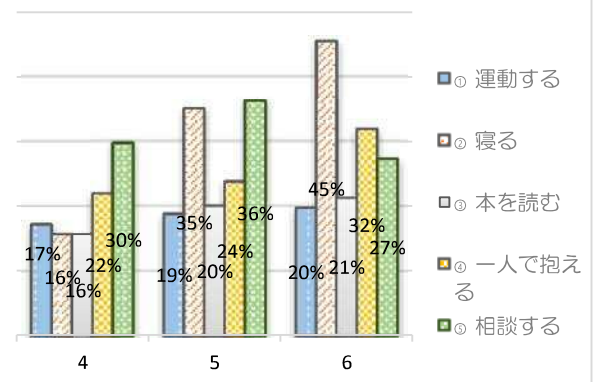
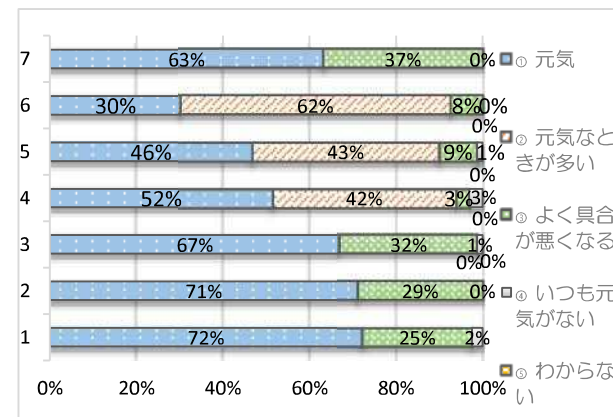
※ 4, 5, 6学年を対象に調査



平成三十 年度一学期



令和元 年度二学期



肯定的に答える児童がほとんどで、特に3学年以上の児童は元気と答える割合が高くなった。

不安や悩みへの解消法として、運動したりしっかり睡眠を取ったりすることで、気分転換につながっていることが考えられる。また、解消法として、相談することが挙げられるが一人で抱える児童も2割から3割いた。

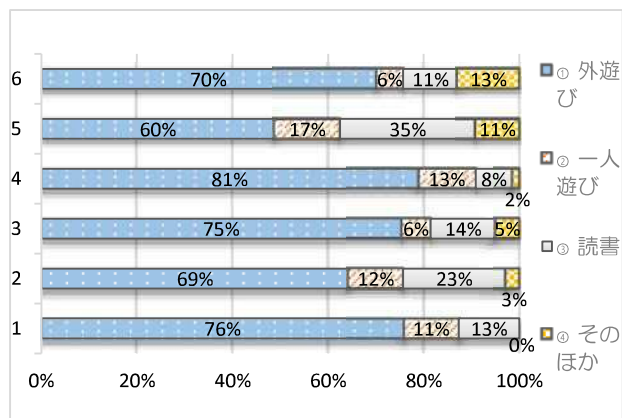
質問7

休み時間に何をして過ごすのが好きですか。

(複数回答可)

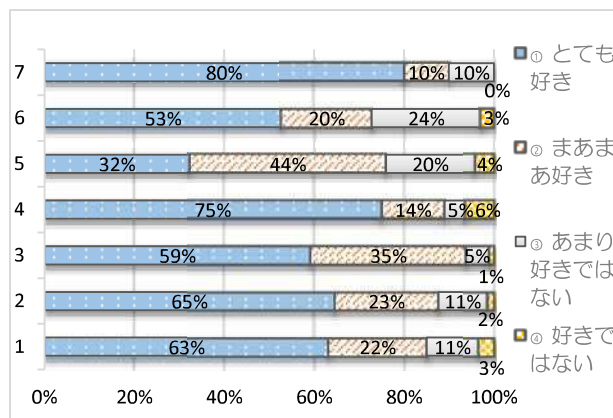
※ 1～6学年を対象に調査

平成二十九年 度一学期

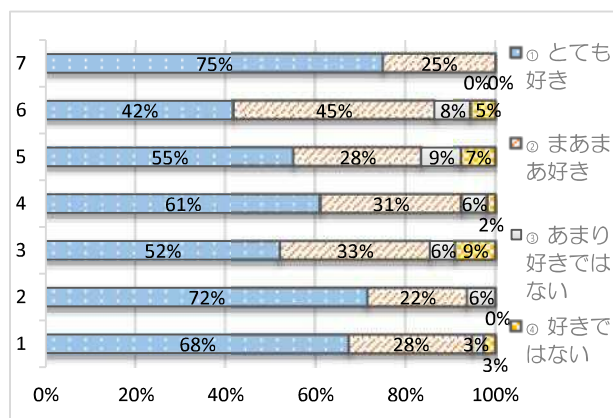
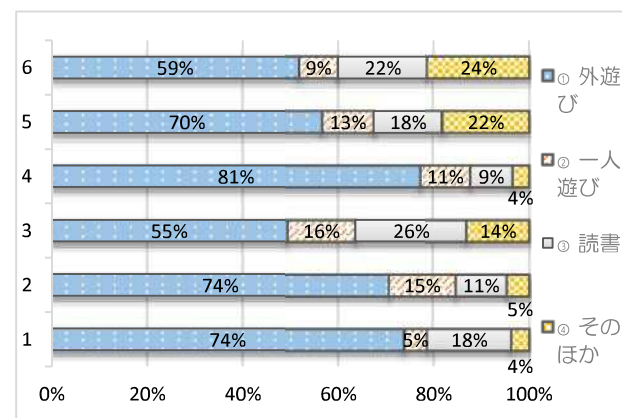


質問8

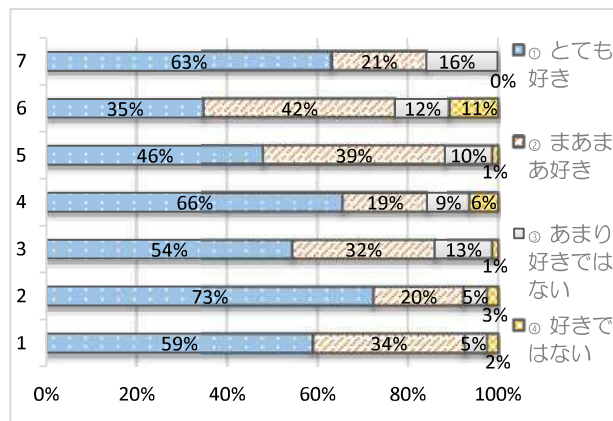
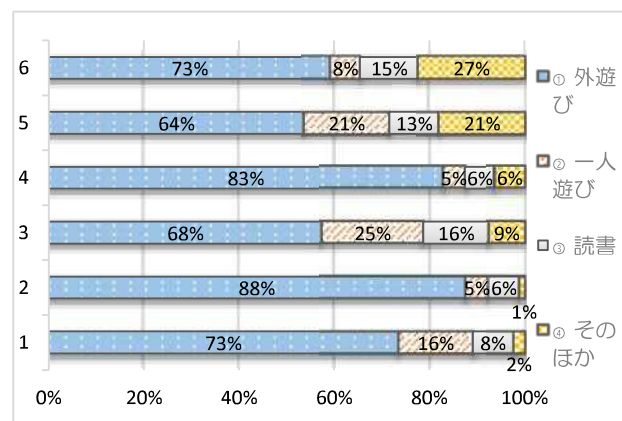
休み時間に外遊びをするのは好きですか。



平成三十 年度一学期



令和元 年度二学期



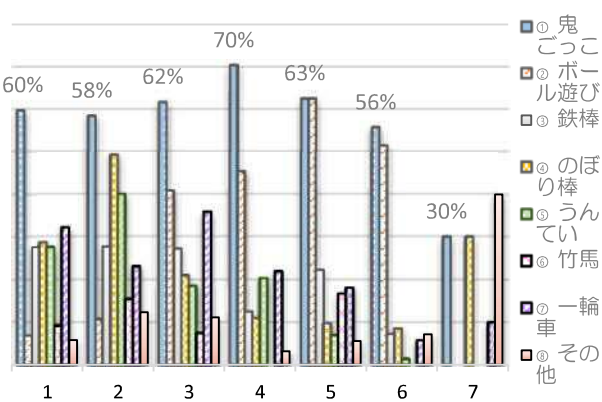
割合としては外遊びが一番多いが、5、6年はそのほかと回答する児童の割合も高いことが分かる。

外遊びをするのが好きと回答する児童が多かった。好きではないと回答する児童は、高学年に上がるにつれて、割合が高くなっていった。

質問9

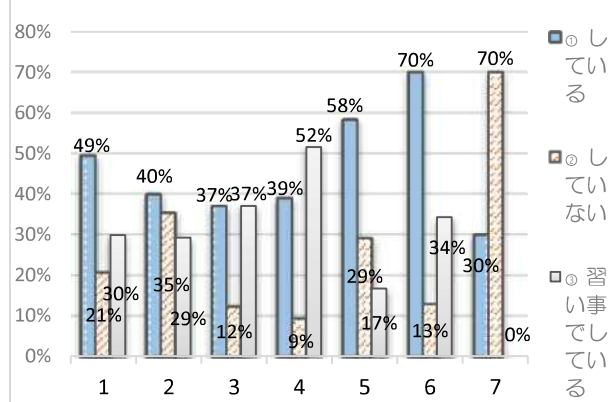
外遊びでは、何をして遊んでいますか。
(複数回答可)

平成二十九年 度一学期

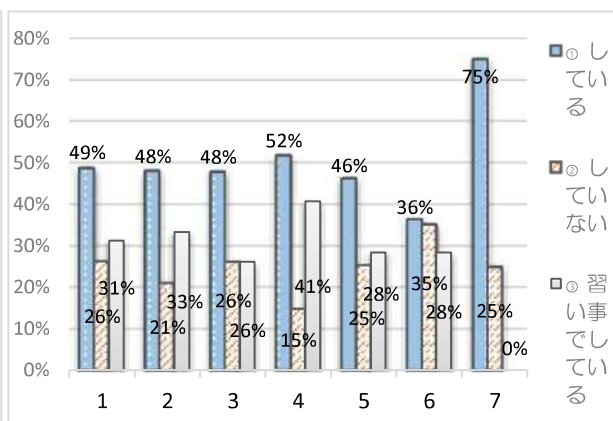
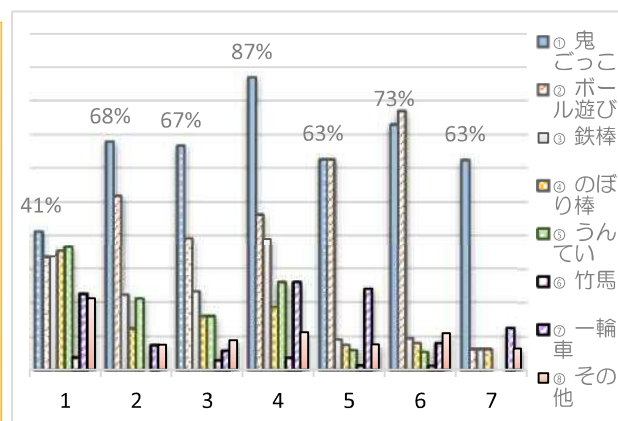


質問10

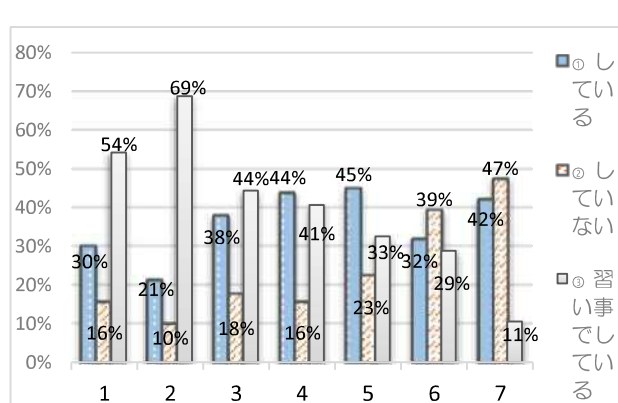
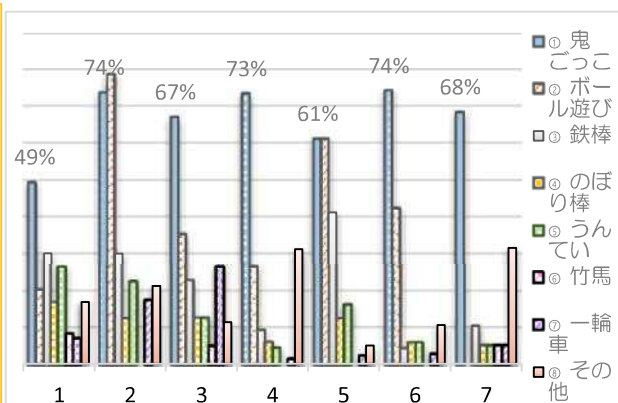
放課後に外遊びや運動をしていますか。



平成三十 年 度一学期



令和元 年 度三学期



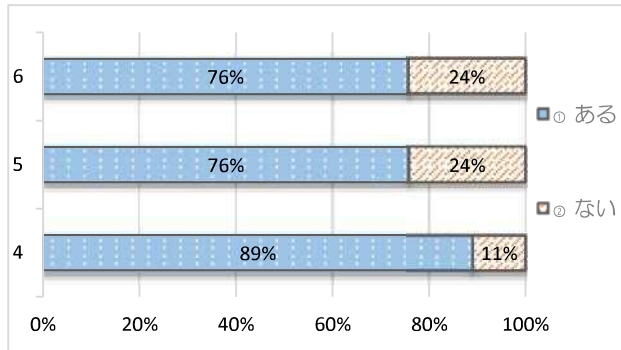
どの学年も鬼遊びが人気で、次いでボール遊びが人気だということが分かる。

年度毎にばらつきが見られる。放課後に外遊びをしている児童が減少傾向にあり、習い事をする低学年の児童の割合が高いことが分かる。

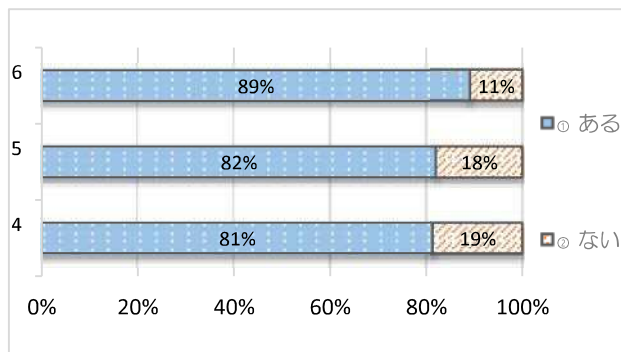
質問 1 1

スポーツをしていて、楽しいときはありますか。

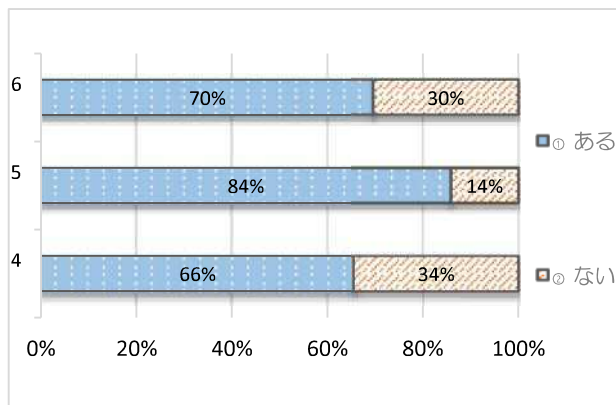
平成二十九年 一学期



平成三十年 一学期



令和元年度 三学期



7割程度の児童がスポーツをしていて楽しいときがあると回答した。前年度に比べ、減少傾向にあることが分かった。

平成29・30・令和元年度の結果から

○ 平成29年度から30年度にかけて運動が好きと回答する児童の割合はわずかに増加し、令和元年度においては30年度とほぼ変わらない傾向が見られる。高学年に上がるにつれて、運動が好きと回答する児童が減少傾向にあるものの、学年によるばらつきはほとんど見られない。

○ いつも朝ご飯を食べていると回答する児童が8割以上で平成29年度、30年度とほぼ変わらない傾向であった。

○ いつも何時に寝ますかの回答では、中学年において、9時～10時の間に寝ている割合は平成29年度、30年度とほぼ変わらない傾向がある。しかし、高学年に上がるにつれて10時以降に寝る児童が5割以上であることが分かった。

○ スポーツをしていて楽しいときがあると回答する児童の割合が減少傾向にあるため、体育科学習で運動する時間を確保したり、朋有エンジョイタイムを効果的に活用したりする必要がある。

○ 不安や悩みを抱えたときの対処法では、複数回答可にも関わらず、全体的に回答数が少なくなり、児童自身が不安や悩みに対する解消法を見付けることが難しくなっていることが分かる。

○ 体の調子が元気と回答している児童がほぼ変わらない傾向であるが、低学年ではよく具合が悪くなると答える児童が多い。そのため、今後も心に根ざした学習として、食育や保健学習を通して自分自身や他者の健康について考え、心も元気な児童の育成を図っていく必要がある。

5 授業実践

研究主題に迫る取組の工夫として、① 児童自ら健康課題に関心をもつための手だて ② 健康課題を解決するための手だて ③ 解決した課題を表現するための手だてとして研究授業を実践した。

以下は、今年度の研究授業の様子である。

竹の子学級 体育「めざせ！竹の子げんキッズ！」

＜② 健康課題を解決するための手だて＞



- 1、2年生では、イラストの拡大コピーを提示することで、課題への理解を深めさせると同時に、発言できない児童に対して発言を促すための視覚的配慮を行うことで、解決への思考を広げた。
- 3、4年生では、ICTの活用によって、自分の姿勢を客観的に見られるようにした。
- 5年生では、成長ホルモンやレム睡眠・ノンレム睡眠の表を簡潔にして提示し、自分の睡眠時間と比較できるようにした。
- 6年生では、ゲームや動画視聴の影響について、写真やイラスト等で提示することで正確に理解できるようにした。

第1学年 学級活動（食育）「うんちはかせになろう」

＜① 児童自らが健康課題に関心をもつための手だて＞



- 「すっきりバナナマンから手紙が届いた」という設定で授業を始めることで、国語の「てがみでしらせよう」の学習と関連して、興味・関心が高まると考えた。
- 栄養士の先生に授業に参加してもらい、食育エプロンを活用したり食物繊維のたくさん含まれた野菜について教えてもらったりすることで、好き嫌いなく食べることの大切さに気付くようにした。
- 「さわやかな朝！チャレンジカード」に取り組んでいる1週間の中で授業を行うことで、さらに実践意欲が高まると考えた。

第2学年 生活科「大きくそだてみんなの野菜い」

〈① 児童自らが健康課題に関心をもつための手だて ② 健康課題を解決するための手だて〉



- 環境教育に関する講師と連携することにより、自然との関わり方や身近な植物と生活との関りを具体的に学ぶ機会とする。
- 「一人一鉢」「クラス野菜」「グループ野菜」を設定することにより、自然と直接関わる体験や活動を通して、野菜への関心を高めたり、野菜と主体的に関わろうとしたりする。
- 自分たちが大切に育てた大豆を使った味噌づくりをすることで、野菜の栽培が自分たちの生活や健康に生かされていることに気づき、食への関心を高める。

第3学年 総合的な学習の時間「毎日の生活と健康」

〈児童自らが健康課題に関心をもつための手だて〉



- 自分の就寝時間や起床時間等が分かる「さわやかな朝チャレンジカード」の回答結果を授業で活用することで、学習内容を自分自身の生活に結び付けて考えることができるようにする。
- 児童は保健の学習で、身の回りの清潔について学習した。手洗いチェッカーにより手の汚れを見て分かるようにすることで、児童1人1人が課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動できるようにする。
- 2年生に学習したことを手洗い歌、動画、タブレットなどの様々な手段を選び、発表することで日常化につなげる。

第4学年 保健「育ちゆく体とわたし」

＜⑥ 児童自ら健康課題に関心をもつための手だて＞



- 生活習慣シートを活用して自分の問題点を見付け、児童自身の生活習慣を見直す活動を行う。
- 「食事」「睡眠」「運動」の中で、さわやか朝チャレンジのアンケートや自分の問題点の発表の中から睡眠の課題を取り上げ、自身の睡眠を振り返る機会をとる。
- 「寝る子は育つ」の意味を考えさせ、睡眠中に分泌される成長ホルモンが成長に大切なことにつなげ、夜10時までには就寝することが大切であることに気付かせる。
- 学習をふまえて、これからの自分で振り返らせ、1週間以上続けてみてどうかを試みていく時間を設けることで、成長や健康への意識を高めることができる。

第5学年 総合的な学習の時間「Go!Go!」安全ひろめ隊」

＜⑥ 健康課題を解決するための手だて＞



- 自分たちで見付けた安全の工夫や、危険箇所を撮影した。その写真を見せながら友達に自分の考えを発表することで、より分かりやすく課題への理解を深めさせることができると考える。
- 発言を促すための視覚的配慮を行うことで、解決への思考を広げさせる手だてとなる。
- 話し合いが活性化するように、グループを少人数編成すると効果的であると考えた。自分が考えた解決策を伝え合うことで、自分たちの気付かなかった策を見付けることができ、具体的なアドバイスを伝え合う場を設定する。

第6学年「病気の予防」

く② 健康課題を解決するための手だて ③ 解決した課題を表現するための手だて



○保健で学習した「病気の予防」の中で、さらに知りたいこと、疑問に思ったことについて、総合的な学習の時間に自分でテーマを設定し、調べ学習を行った。グラフや表、写真などの資料を効果的に活用しながら、お互いに発表し合ったことで、さまざまな病気についての関心を高めることができた。

○いろいろな病気の原因が「飲酒」や「喫煙」であることが分かり、3学期の保健の学習内容「飲酒の害」「喫煙の害」の学習につなげることができた。

○ICTを活用して、映像や資料を提示することで、より知識の定着に繋げるだけでなく、児童の思考に揺さぶりをかけることができると考えた。

○ゲストティーチャーの活用により、学習したことをより深めることができ、意識を高めることができた。

6 成果と課題

これまでの本研究の成果と課題は以下の通りである。

成 果

- 年間を通じた継続的な学習により、児童の関心や意欲も継続し、食や健康への意識を高めることができた。
- 教材や発問を工夫し、児童に揺さぶりをかけたことで、児童自身が健康課題を解決していく必要があるという実感を体得することができた。
- 食育や保健学習を通して、児童自身の健康課題について考えたり、考えたことを実践しようとしていく姿が見られるようになってきた。
- 児童自らが課題を見付け、解決方法を考え、学習を進めていくことができた。
- 見付けた課題を解決し、それぞれの方法で表現したことで、お互いの考えを伝えたり、情報を共有したりすることができ、新たな発見や児童の変容につながった。
- 正しい知識の定着が、健康への課題意識や日常への取組につながった。

課 題

- 保健や生活科、総合的な学習の時間に学んだことを、日常的な取り組みにつなげていくためには、保護者や家庭環境が大きく影響するため、家庭との連携をどのように図っていくか今後も検討が必要である。
- 保健学習や食育学習を通して、児童自身の健康課題について関心をもつようになっている。今後は、単元で学んだことを日常生活の中に生かせるよう、今年度作成した計画を次年度も継続し、よりよい形にしていく必要がある。
- 児童が自分たちで見つけた課題が、自分自身だけでは解決できないものもあった。全ての課題が自分たちの手によって解決できると、より児童の意識が高まると考えられる。今後は、その方法についても検討していく必要がある。
- 心と体のアンケートでは、「体の調子が元気」と回答している児童がほぼ変わらない傾向であるが、低学年では「よく具合が悪くなる」と答える児童が多い。そのため、今後も心に根ざした学習として、食育や保健学習を通して自分自身や他者の健康について考え、心も元気な児童の育成を図っていく必要がある。

おわりに

副校長 八木田 修

平成30年度に豊島区教育委員会研究奨励校として研究主題「健やかな心と体をもつ児童の育成」を目指し、研究を進めてきました。今年度も昨年度同様、今までの研究に加え、児童自らが健康課題に関心をもち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫について追求することとし、特に保健領域と食育の指導の充実を図ることにしました。

児童は、見通しをもって楽しんで学習していることや、食育や保健学習を通して、児童自身が健康課題について考えたり、考えたことを実践しようとしたりする姿が見られるようになったこと、特に高学年では、自主的に手洗い・うがいをする児童が増えたこと、病気に関する意識が高まったことなど、多くの成果を得ることができました。

しかしながら、知識としては深めることができました。家庭での日常化には、課題が残りました。継続して健康課題を解決する実践をしていくために、どのような形で家庭と連携していけばよいか、今後も研究を重ねていきます。

最後になりましたが、本研究にご指導賜りました、東洋大学教職支援室 教職支援アドバイザー山田修司先生をはじめ、多くの先生方に心より感謝申し上げます。今後ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

＜ご指導ご協力いただいた皆様＞

東洋大学 教職支援室 教職支援アドバイザー	山田 修司先生
FC東京キャラバン隊普及コーチ	鯨井 健太 氏 他数名
バルセロナオリンピック 400m代表	渡邊 高博 氏

研究に携わった教職員

○ 研究推進委員

校 長	稲垣 昌弘	副校長	八木田 修	副校長補佐	彌永 英俊
1 年	○ 浜田 裕美	神戸まどか	横田真由美		
2 年	才原 知子	小澤祐太郎	○ 福崎 亜矢	吉川 和男	
3 年	高橋 英子	○ 島田 美裕	宮崎 貴史		
4 年	野村 尚子	○ 本橋 直樹			
5 年	鈴木 道雄	一瀬 麻子	○ 高橋 恒介		
6 年	宇田 和也	○ 渡邊 友希			
竹の子学級	酒井 尚子	山内 礼恵	○ 木村 喜好	藤澤 峻	鹿討 秀美
算数少人数	山本 英征	日本語指導	松山 則和		
音 楽	近藤 瑠美	図画工作	天野 みなみ		
栄養士	和久田 有未				
養 護	荒川 歩	事 務	青木 崇		
くわのみ教室(巡回指導員)	藤原 恵子	嶺井 栄祐	渡邊 涼		
特別支援教室専門員	石原 美江	特別支援学級指導員	石田 知子		